

渇筆の天才画家 小杉放菴

一最高の和紙を求めて一

令和4年9月16日(金) - 10月17日(月) 毎週火曜日休館 越前和紙の里 紙の文化博物館

福井県越前市新在家町 11-12 問合せ先 0778-42-0016 開館時間:午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで) 入館料:300円(15名以上の団体200円) 高校生以下無料

障がい者手帳等をお持ちの方は、150円

主 催:越前市

新型コロナウイルスの感染拡大防止等のため、入場制限等を行う場合や中止になる場合があります。

越前和紙の里

越前和紙の里 紙の文化博物館 Museum of Washi and Culture







0

小杉放菴筆 1《蒼海》 2《秋渓》 3《西遊記》

4 《赤壁の賦及婦人像》(部分) 5 《踊る良寛》

2・4:福井県立美術館蔵

1・3・5: 小杉放菴記念日光美術館蔵

麻紙の放菴か 放アンの麻紙か

小杉放菴書簡 [福井県立美術館蔵]

小杉放菴は明治14年(1881年)に生まれ、はじめ洋画を学んだのち日本画も描くようになり、水墨の表現に関心を深めました。 山水や花鳥を描いて書や詩をよくし、東洋的な文人の世界を体現した画家として知られています。

放菴は、越前和紙の名匠、初代岩野平三郎と深い親交があり、 2人のやり取りの中で作られた麻紙を放菴はことのほか愛用します。この紙はのち「放菴紙」と呼ばれるようになり、麻の粗い繊維の混ざるこの紙は、他の画紙には無い風合いを持っています。 墨のかすれと淡墨の微妙なにじみを特徴とする放菴後半生の画風を支えた紙と言っても過言ではありません。

本展覧会は、小杉放菴記念日光美術館と福井県立美術館が所蔵 する放菴の麻紙を用いた作品とともに、書簡など、平三郎家ゆか りの資料をあわせてご紹介します。

ドブリとつけた墨の しみぐあひもよろしく かすれた味もよく出ますこと

小杉放菴書簡 [福井県立美術館蔵]





3



 入館料
 大人
 高校生以下

 個人
 300円
 無料

 団体
 200円
 無料

※身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保 健福祉手帳の交付を受けている方は、150円

※団体は、15名以上の場合に適用

※入館料は、紙の文化博物館・卯立の工芸館と 共通



電車

JR大阪駅〜武生駅(特急2時間) JR名古屋駅〜武生駅(特急2時間) JR金沢駅〜武生駅(特急1時間)

自動車

米原JCT〜武生I.C(北陸自動車道1時間) 武生I.Cより10分

JR武生駅下車後、タクシーで20分 福鉄バス南越線で30分、和紙の里下車 徒歩3分